

福岡アジア美術館 令和7年度事業報告

令和8年3月19日
令和7年度福岡市美術館協議会

「Fukuoka Art Next(FaN)」事業（令和4年度から）

FaN
Fukuoka Art Next

暮らしの中で身近にアートに触れる機会を増やし、アーティストの成長支援に取り組む「Fukuoka Art Next」において、当館では主に次の取組みを行った。

2大ギャラリーを使った特別展・コレクション展の同時開催

「Fan Week」開催にあわせ、当館の2大ギャラリーにて2つのアジア美術展覧会を同時開催した。



特別展「ベトナム、記憶の風景」入口



「ベストコレクションⅢー変革の時代、新たな自画像」入口

アーティスト・イン・レジデンス事業の拡充

海外5組、日本1組、福岡1組のアーティストを招へい。
舞鶴にあるArtist Cafe Fukuokaを拠点に滞在制作を行った。



Artist Cafe Fukuokaで滞在制作した第1期のアーティスト3名

1 概要

2 事業について

- (1) 展示活動(特別企画展、コレクション展)
- (2) 収集活動(購入、寄贈、寄託)
- (3) 交流事業
- (4) 教育普及活動
- (5) 貸館事業
- (6) 広報・集客に関すること 等

3 施設利用状況

1 概要

■開館 1999年(平成11年)3月6日開館

■規模 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下4階地上13階のうち1階及び7階、8階
建物面積 151,595.91㎡のうち、区分所有専有面積 9,101.05㎡

■展示室

7階 アジアギャラリー、企画ギャラリー

8階 交流ギャラリー

■その他施設

7階 アートカフェ、ミュージアムショップ、キッズコーナー

8階 あじびホール、交流スタジオ、図書閲覧室

■ギャラリー観覧時間 午前9時30分～午後6時(金曜・土曜は午後8時まで)
※ギャラリー入室は閉室30分前まで

■開館時間 午前9時30分 ～ 午後7時30分 水曜日休館
(金曜・土曜は午後8時まで)

■組織(30名)

※令和7年4月

総館長、館長(運営課・学芸課・課長(魅力向上検討)の総括)

運営課長	運営係 8名 (係長1、事務2、会計年度任用職員5)
学芸課長	収集展示係 7名 (係長1、学芸員2、再任用1、会計年度任用職員3)
	交流・教育係 7名 (係長1、学芸員1、会計年度任用職員5)
課長(魅力向上検討)	主査※魅力向上施設検討 (主査1、建築1)
	主査※魅力向上運営検討 (主査1)

■令和7年度予算額

歳出	1,280,779 千円	施設管理、魅力向上経費、施設改修、交流事業、展覧会経費、資料収集費 等
歳入	715,155 千円	施設使用料、常設展観覧料、寄付 等

2 事業について

- (1) 展示活動(特別企画展、コレクション展)
- (2) 収集活動(購入、寄贈、寄託)
- (3) 交流事業
- (4) 教育普及活動
- (5) 貸館利用
- (6) 広報・集客に関すること等

ベトナム、記憶の風景

会期 令和7年9月13日～11月9日（50日間）

主催 福岡アジア美術館、(公財)三谷文化芸術保護情報発信事業財団、西日本新聞社

入場者数 6,262人

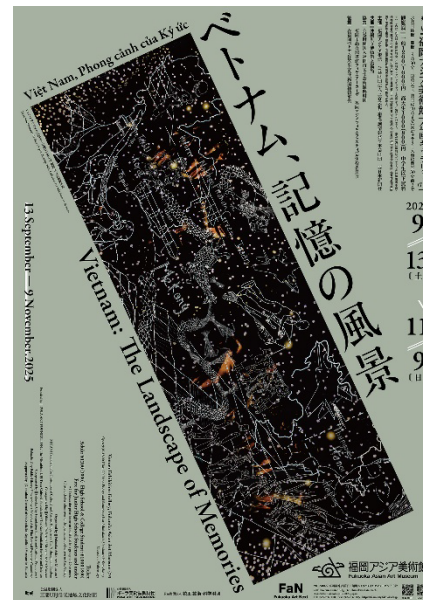
内容

ベトナム戦争終結50周年を記念した展覧会。近代以降の世界の課題を絶えず経験してきたベトナム激動の100年を辿りながら、ベトナムのアーティストによる美術作品約110点を紹介した。

会期中にはギャラリーツアーのほか、出品作家によるアーティストトークや福岡在住の様々なルーツを持つ方々と中秋節を祝う「国際中秋節INあじび」等、多彩なイベントも開催した。

会期中の
主な
イベント

- ✓ 出品作家によるアーティストトーク&上映会
- ✓ 国際中秋節INあじび
- ✓ 明治産業presents パム
(Party At The Museum)vol.3
- ✓ 学芸員によるギャラリーツアー
- ✓ ベトナム映画上映会(連携企画)



ポスターデザイン

チラシデザイン

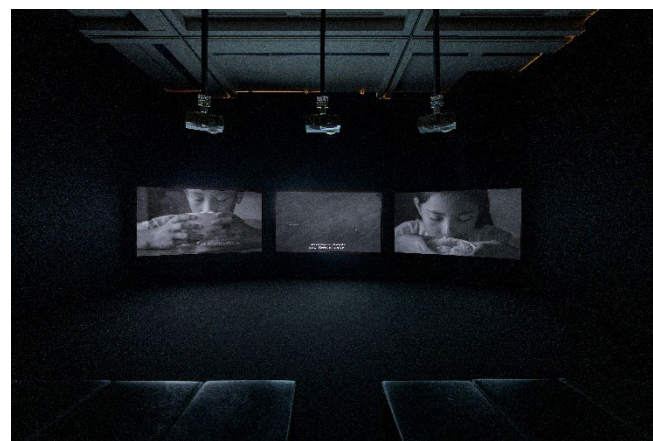
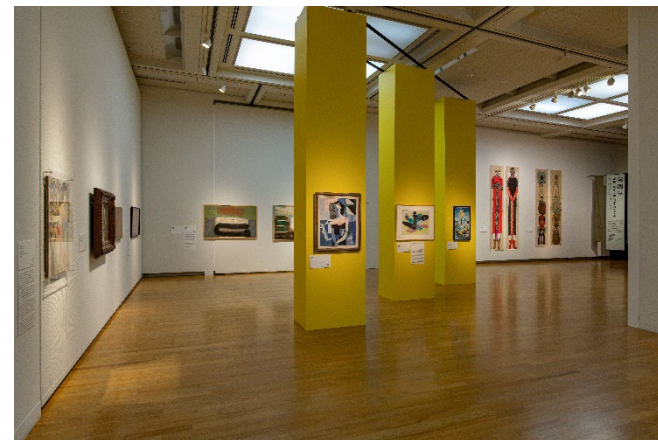


2(1) 展示活動

特別企画展

ベトナム、記憶の風景

展示風景



おいでよ！夏の美術館 vol.2 オバケ？展



会期	令和7年7月10日～8月31日（53日間） ※ 会期中無休
主催	福岡アジア美術館、西日本新聞社、 テレビ西日本、西日本新聞イベントサービス
入場者数	41,157人
内容	夏季の新たな展覧会シリーズ、「おいでよ！夏の美術館」の第2弾として、「オバケ？」展を実施。 オバケを切り口に、絵本、落語、アニメーションなどの作品に加え、オバケ屋敷やオバケ湯、オバケ工場など親子で楽しめる体験型の企画等、多彩な仕掛けで会場は賑わった。 なお、当館所蔵品からアジアのオバケもコラボ展示した。
会期中の 主な イベント	✓ オバケナイトミュージアム ✓ なかよしオバケコンサート ✓ ワークショップ「オバケハウス」を作ろう ✓ TNCアナウンサー、当館ボランティアによる絵本の読み聞かせ ✓ おやこでたのしむ落語(福岡市文化芸術振興財団)



会場風景



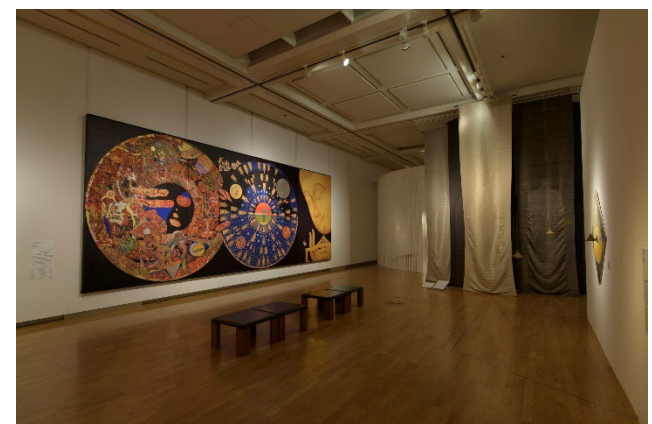
2(1) 展示活動

コレクション展

アジアコレクション展

この手が未来を編み直す

展示風景



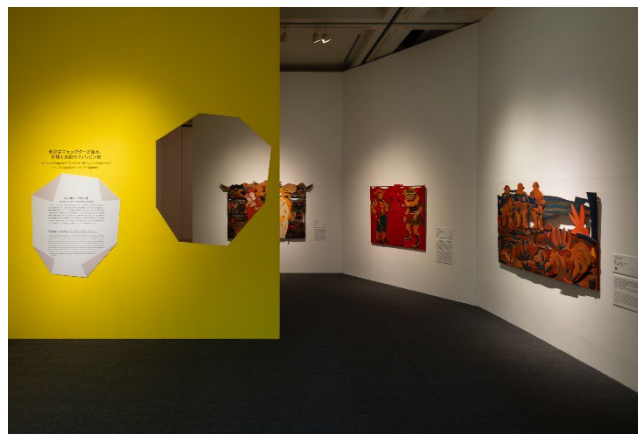
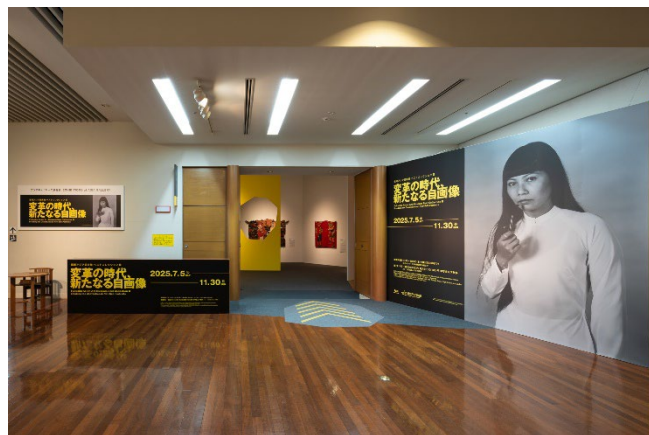
2(1) 展示活動

コレクション展

ベストコレクションⅢ

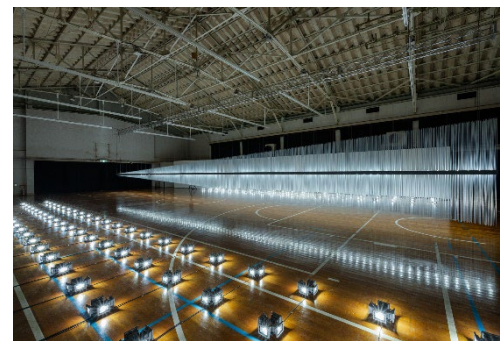
変革の時代、新たなる自画像

会場風景



光電獣 ELECTRONIC MONSTERS

会期	令和7年9月13日～9月28日(14日間)
主催	福岡アジア美術館
会場	Artist Cafe Fukuoka内 Grand Studio
入場者数	3,398人 ※サウンドパフォーマンス入場者含む
内容	メディア・アーティストとして国際的に活躍する台湾在住のヤオ・ジョンハン氏を迎え、「FaN Week」にあわせて開催された特別展示。 ヤオ氏は、2009年の「第4回福岡トリエンナーレ」の参加作家で、実に16年ぶりの福岡での展示となった。 「光電獣」と命名された照明装置が生み出す光と闇、そして無数の音からなる大規模なインスタレーション、そして作家自身によるサウンドパフォーマンスを体感することのできるまたとない機会となった。



2(2) 収集活動(購入、寄贈、寄託)

購入

平面1点



《春の日は過ぎゆく-2》

アン・チャンホン[韓国]

アクリル、コラージュ、インクジェットプリント・紙、107.5×158.8cm、2007年

2(2) 収集活動(購入、寄贈、寄託)

寄贈

104点(平面44点、立体8点、版画38点、写真1点、ビデオ1点ほか)



《バジュ・クロンと一杯のコーヒー》

ジュハリ・サイード[マレーシア]

リノカット・紙、54.5×56.5cm、1991年



《花畑にて》

アン・チャンホン[韓国]

シルクスクリーン・紙、80.0× 49.5cm、2006年



《タクシー運転手のワンさんと娘》

石青[中国]

写真、207.0×212.5cm、2009年

2(2) 収集活動(購入、寄贈、寄託)

寄託

平面1点



《村の風景》

グエン・ザー・チー [ベトナム]

漆・板、95.0×200.0cm、1940年
上海浦江東南亜文化芸術交流中心所蔵

2(3) 交流事業

アーティスト・イン・レジデンス事業

美術作家招聘事業(第1期)

期間	令和7年7月～9月(3か月間)
作家	モハメド・フォズレ・ラッビ・フォティック(バングラデシュ)、ウィリー・サイウッド(ラオス)、馬場さおり(福岡)
内容	「FaN Week」と連動したレジデンス成果展では、フォティックは福岡市内のリサーチでみつけた変形した野菜や魚のアラを被写体にした写真作品を展示したほか、サイウッドは手作りの回転灯籠を用いた影絵作品を、また馬場は自らの人生をたどるような写真インスタレーションを展示した。
参加者数	✓ 展覧会(14日間) : 2,814人 ✓ トーク、オープnstudio : 73人

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

ILLUMINATE
OUR LIFE

馬場さおり
Baba Saori

モハメド・フォズレ・ラッビ・フォティック
Md. Fazla Rabbi Fatig

ウィリー・サイウッド
Willie Xaiwouth

第24回 福岡アジア美術館 アーティスト・イン・レジデンスの成果展

2025
9.13(土) 9.28(日)
11:00-19:00
Artist Cafe Fukuoka
福岡市中央区南1-2-5 Sonae, Chuo Ward, Fukuoka

観覧無料 / Free Admission

いとなみを
照らし出す

福岡アジア美術館

2(3) 交流事業

アーティスト・イン・レジデンス事業

美術作家招聘事業(第1期)

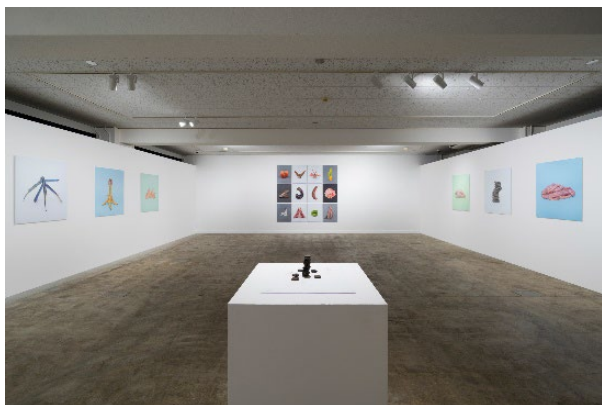
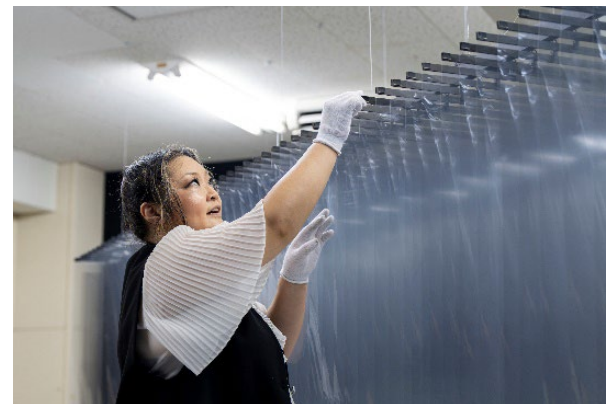
モハメド・フォズレ・ラッビ・フォティック
(バングラデシュ)



ウィリー・サイウッド
(ラオス)



馬場さおり
(福岡)



2(3) 交流事業

アーティスト・イン・レジデンス事業

美術作家招聘事業(第2期)

期間	令和7年10月～12月(3か月間)
作家	チェン・イエンチー(台湾) ※交換レジデンス枠 進藤冬華(北海道)
内容	第2期では滞在リサーチやワークショップをメインに行った。チェンは、福岡の「音」に着目しながら市内をリサーチし、映像作品などを制作。進藤は、福岡の歴史をリサーチすると同時に、誰でも参加できるオープンスタジオを連日開催し、滞在制作を進めた。 チェンはこのほか、地域交流事業として、博多リバレイン灯明(P.23参照)のための地上絵を制作した。
参加者数	地域交流事業、トーク、ワークショップ:458人 ※成果展は第3期と合同で3月に開催予定

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

Fukuoka Asian Art Museum Artist in Residence Program 2025 Part 2
Open Studio: Artist Talk & Workshop



チェン・イエンチー(陳彦齊) Chen Yen-chi

2025年度第2期 福岡アジア美術館 アーティスト・イン・レジデンス

オープン・スタジオ
アーティスト・トーク&ワークショップ



進藤冬華 Shindo Fuyuka

2025
11.8 SAT 会場: Artist Cafe Fukuoka (福岡市中央区城内2-5)
14:00-15:30 アーティスト・トーク
15:30-17:00 オープンスタジオ
入場無料・事前申込不要

11.9 SUN チェン・イエンチー ワークショップ
「まちからはじまる創作」
集合場所: Artist Cafe Fukuoka スタジオ2
開演: 14:00-18:00 ※携帯充電もご検討ください
[お問い合わせ] 福岡アジア美術館 Tel: 092-263-1100 | Fax: 092-263-1105 | Website: <https://faam.city.fukuoka.lg.jp>

2(3) 交流事業

アーティスト・イン・レジデンス事業

美術作家招聘事業(第2期)

チェン・イエンチー
(台湾)



進藤冬華
(日本)

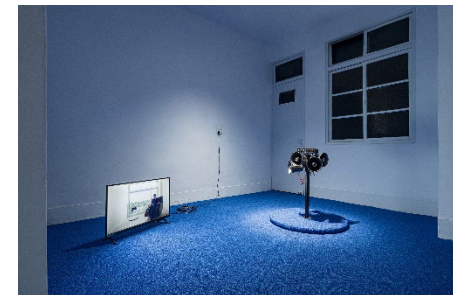
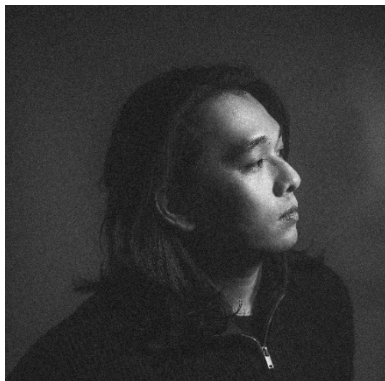


2(3) 交流事業

アーティスト・イン・レジデンス事業

交換レジデンス

期間	令和7年10月～令和8年3月（期間内で3か月間程度滞在）
作家	チェン・イエンチー（台湾）：福岡のArtist Cafe Fukuokaにおいて滞在制作 長野櫻子（福岡）：台湾・高雄のPier-2 Art Centerで滞在制作
内容	台湾のPier-2 Art Centerとアジア美術館との間で、アーティスト各1名を相互に招聘しあう「交換レジデンス」。当館はチェン・イエンチーを招聘し、Pier-2 Art Centerは福岡在住の長野櫻子を招聘する。



チェン・イエンチー（台湾）



長野櫻子（福岡）

2(3) 交流事業

アーティスト・イン・レジデンス事業

美術作家招聘事業(第3期)

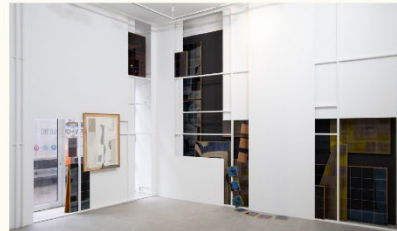
期間	令和8年1月～3月(3か月間)
作家	アルピタ・アカンダ(インド)、小田原ルーカス(ブラジル)
内容	アカンダは、博多織や街中のリサーチから得たモチーフを織り込む紙織り作品を制作し、小田原はACFのグランドスタジオ(旧体育館)に展示する大規模なインスタレーションを構想中。完成した作品は、第2期のアーティストたちと共に3月の成果展で公開する。
参加者数	展覧会は3月20日～4月12日を予定 ※第2・3期合同 トーク、ワークショップ:50人 ※1月末時点

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

2025年度第3期 福岡アジア美術館
アーティスト・イン・レジデンス

KICK-OFF TALK

Fukuoka Asian Art Museum
Artist in Residence Program 2025 Part3 キックオフ・トーク



Odahara Lucas
小田原ルーカス
【住～帰国】Residency Period
2025/1/19-3/26 (Jan. 13, 2026-Mar. 26, 2026)



Arpita Akhanda
アルピタ・アカンダ
【住～帰国】Residency Period
2025/1/19-3/26 (Jan. 13, 2026-Mar. 26, 2026)



Artist Cafe Fukuoka
コミュニティスペース | 福岡市中央区城内2-5
Community Space, Artist Cafe Fukuoka (2-5 Jinn, Chuo-ku, Fukuoka)

1.31 SAT January 31, 2026
14:00-15:30

入場無料・事前申込不要 / 和英逐次通訳 / 定員50名程度
Free admission / No registration required / Event capacity: 50

詳細はこちら / QR code for details on event

【お問い合わせ / Contact】福岡アジア美術館 交流・教育係
Art Exchange and Education Section, Fukuoka Asian Art Museum
Tel. 092-263-1100

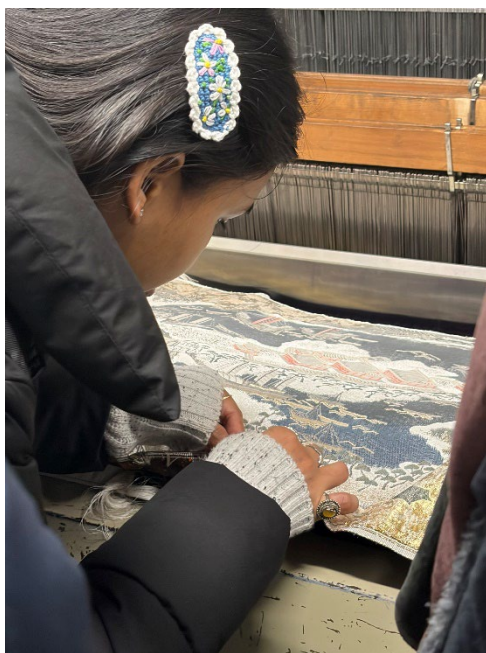


2(3) 交流事業

アーティスト・イン・レジデンス事業

美術作家招聘事業（第3期）

アルピタ・アカンダ
(インド)



小田原ルーカス
(ブラジル)



2(3) 交流事業

地域交流事業

博多リバレイン灯明(「博多灯明ウォッチング」同時開催)

開催	令和7年10月18日
内容	博多リバレインが毎秋開催している「博多リバレイン灯明」において、チェン・イエンチーが美術館ボランティアとともに灯明作品を制作した。



2(4) 教育普及活動

学校との連携

スクールプログラム

内容	アジアギャラリーの鑑賞、アジアのアーティストとのワークショップ、アーティストや学芸員によるトーク、アートカードによる授業等
実施 件数	51件 2,018人 ※1月末現在



ボランティア事業

内容	① 案内・解説 : 作品解説や施設案内 ② 図書資料 : 配架整理および蔵書点検 ③ アーカイブ : 新聞・雑誌掲載記事のスクラップと整理 ④ 広報 : 広報誌や企画展ポスターなどの発送 ⑤ 読み聞かせ : 絵本や紙芝居の読み聞かせ ⑥ 活動支援 : 研修等の企画 ⑦ 交流 : 招聘アーティストのサポート
登録 人数	229人 ※1月末現在



絵本の読み聞かせボランティア

2(4) 教育普及活動

子どもとのワークショップ

みんなでサ〜ンしよう！

◆ワークショップ

実施日	令和7年9月17日（1時間30分）
参加人数	福岡市立舞鶴小学校6年生 150人
内容	ラオスの伝統的な竹編みの技法(サ〜ンサウ)を用いて紙を素材に20cm四方の作品を制作する、ウィリー・サイウッド(ラオス)によるワークショップ。



◆作品展示

会期	令和7年10月16日～11月30日（46日間）
来場者数	7,772人
内容	舞鶴小学校6年生がワークショップで制作した作品を、アジアギャラリー前の壁面にて展示。それぞれのピースごとに工夫が凝らされた作品が、一堂に集まった。



2(4) 教育普及活動

インクルーシブプログラム

手話通訳付き対話型鑑賞

実施日	令和7年10月26日(1時間)
参加人数	福岡高等聴覚特別支援学校(高校生)ほか 6人
内容	「ベストコレクションⅢ 変革の時代、新たなる自画像」にあわせて、耳が聞こえない・聞こえにくい高校生を対象とした、手話通訳付きの対話型鑑賞を行う。



手話通訳付きギャラリーツアー

実施日	令和7年11月22日(40分)
参加人数	聴覚障がい者を含む一般 31人
内容	「ベストコレクションⅢ 変革の時代、新たなる自画像」にあわせて行われる担当学芸員によるギャラリーツアーに手話通訳者が同行した。



市民等の創作活動の発表の場として、企画ギャラリー、交流ギャラリー、あじびホール、アートカフェを貸出。(ギャラリーは年2回募集、原則1週間単位利用)

令和7年度利用状況

①協力企画展

✓ 手塚治虫 ブラック・ジャック展

会期: 令和7年4月26日 から 6月22日 まで(50日間)

観覧者数: 21,980人

②その他貸館

施設	貸出日数	貸出件数	観覧／利用者数
企画ギャラリー	268日	28件	80,737人
交流ギャラリー	264日	18件	26,441人
あじびホール	—	66件	6,017人

2(6) 広報・集客に関すること等

集客事業・連携・協力事業等

○福岡ミュージアムウィーク2025

期間	令和7年5月17日～5月25日
内容	「国際博物館の日」を記念し、市内の20の美術館・博物館が、期間中にさまざまな催しを実施するというもの。毎年紙でのスタンプラリーを実施しているが、本年度は紙媒体とオンラインのQRコードを併用したスタンプラリーを実施。
主なイベント	(1) 期間中のアジアギャラリー観覧者数2,932人 (2) 5月18日 井手俊作氏講演会 「ハン・ガン『少年が来る』を翻訳して —韓国文学の魅力を探る」（参加者:約205人） (3) 5月17,18,24,25日 アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ(参加者:73人) (4) 5月17,24日 バックヤードツアー(参加者:34人) (5) 5月19,20,22,23日 ギャラリーツアー(参加者:27人) 総計 : 3,271人



2(6) 広報・集客に関すること等

集客事業・連携・協力事業等

○福岡市文化芸術振興財団との連携(7階アートカフェ)

- ✓ おいでよ!「オバケ?」展関連企画

おやこでたのしむらくご(7/26 参加者数:180人)

- ✓ 幻影に舞う! 東洋と西洋のコラボで魅せるパフォーマンス
(10/18 参加者数:160人)

- ✓ Live@Museum (9/5~11/28(金曜日の夜のみ開催))

- ✓ 福岡アジア美術館「ベトナム、記憶の風景」×福岡市民芸術祭
オープニングライブ(9/13 参加者数:514人)

○福岡アートネクスト(FaN)との連携(7階アートカフェ)

- ・ FaN Week ×AFAF(アートフェアアジア福岡)レセプション
(9/25 参加者数:500人)

2(6) 広報・集客に関すること等

集客事業・連携・協力事業等

○ベストコレクションⅢ—変革の時代、新たなる自画像 関連イベント

- ① 学芸員によるギャラリーツアー(8/10ほか 参加者数:計37人)
- ② 手話通訳付きギャラリーツアー(11/22 参加者数:31人)

○特別企画展「ベトナム、記憶の風景」 関連イベント

- ① オープニングライブ&ギャラリーツアー(9/13 参加者数:計256人)
- ② 国際中秋節INあじび(10/4,5 参加者数:計2,900人)
- ③ 学芸員によるギャラリーツアー(10/18ほか 参加者数:計58人)
- ③ 出品作家によるアーティストトーク(10/19 参加者数:計145人)

○「ベストコレクションⅢ」「ベトナム、記憶の風景」両展関連イベント

PAM(Party At the Museum)Vol.3

主催:福岡アジア美術館、明治産業 企画:三声舎
(11/1~3 参加者数:計2,658人)

ゲストトーク、ステージイベント、ワークショップ、
フード販売、DJイベント等を実施



Party At the Museumでの
ゲストとの鑑賞ツアー



国際中秋節INあじび



アーティストトーク



Party At the Museumでの
DJイベント

広報活動

○広報誌「あじびニュース」発行部数：

Vol.96 8,000部^(4月発行)、Vol.97 8,000部^(8月発行)、Vol.98 8,000部^(12月発行)
全国の美術館をはじめ、近隣のホテルや飲食店に毎号5,000～6,000部を配送。

○ 特別展広報として、ポスター600部およびチラシ30,000部を全国各地の美術館や、公共施設、店舗、大学等、約600か所に送付。

○ SNSを活用し、館の運営全般や展示にまつわる事柄を紹介。

- ✓ Facebook：運営上の告知、展覧会にまつわるブログ記事等を発信
- ✓ Instagram：各展覧会の様子やレジデンス制作の状況について発信
- ✓ X(旧Twitter)：展覧会案内、イベント案内、所蔵品紹介等

○ その他、ポスター掲出(本庁、空港線・箱崎線地下鉄、情報プラザ)や市政記者投げ込み、市政だより記事面・情報Box掲載等を実施。

2(6) 広報・集客に関すること等



広報強化

① 動画制作

- ✓ アジアコレクション 15秒動画1本(日本語)
- ✓ ベトナム、記憶の風景 15秒動画1本(日本語)
- ✓ ベストコレクションⅢ 15秒動画1本(日本語・韓国語)

美術館公式SNS・HP掲載、福岡市公式SNS・HP掲載、福岡市デジタルサイネージ放映、博多ポートタワー内モニター放映

② Instagram広告

- ✓ アジアコレクション → 福岡県(5/15～6/22)
- ✓ ベストコレクションⅢ→ 福岡県(9/1～11/30)、韓国(9/9～11/9)

③ 交通広告

福岡空港国際線観光案内所、博多港国際ターミナル07インチモニター、地下鉄天神駅ビジョン、天神西通りビジョン、博多駅筑紫口ビジョン

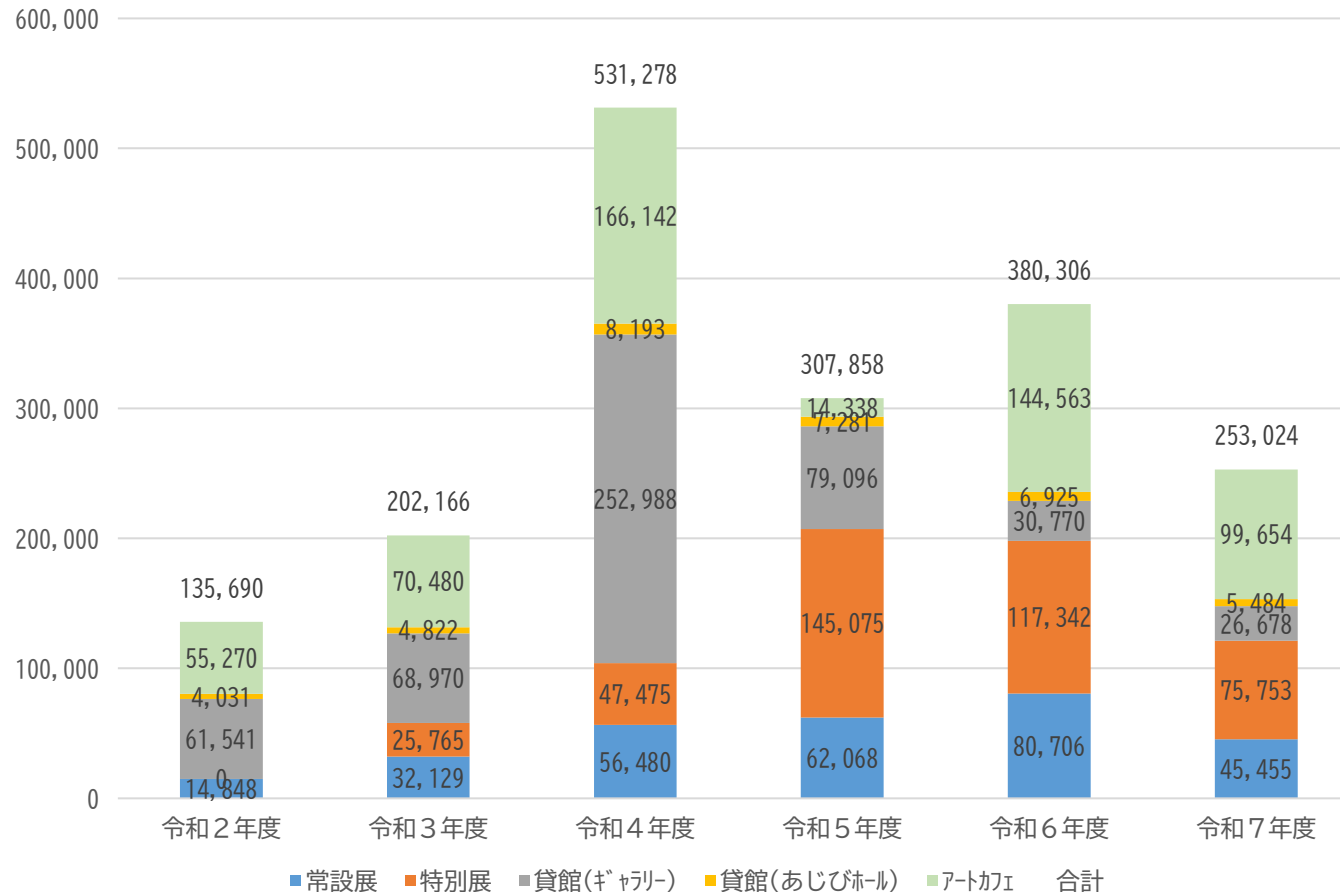
④ インフルエンサーによるPR活動

アジアコレクション2名、ベストコレクションⅢ 1名による掲載

3 施設利用状況

施設利用者数の推移

(単位:人)



※新型コロナウイルス感染症蔓延防止のための臨時休館:

令和2年度:令和2年4月4日~5月18日、

令和3年度:令和3年5月12日~6月20日及び8月9日~9月13日(ただし、令和3年度は、特別企画展等を除く)

※令和7年度は施設改修工事のため4か月休館。

福岡アジア美術館 令和8年度事業計画

令和8年3月19日
令和7年度福岡市美術館協議会

1 観覧者数目標

2 令和8年度組織(案)

3 令和8年度予算(案)

4 主な事業、取組みについて

展示事業：特別企画展

コレクション展

交流事業：アーティスト・イン・レジデンス事業

教育普及活動

5 魅力向上の検討

1 観覧者数目標

観覧者数目標:24.4万人

(参考:観覧者数 実績)

令和7年度:147,886人(4か月休館)、令和6年度:228,818人、令和5年度:286,239人

2 令和8年度組織(案)

33名:総館長、館長(運営課・学芸課・課長(魅力向上検討)の総括)

運営課長	運営係 7名 (係長1、事務2、会計年度任用職員4)	
	主査※企画広報 (主査1、会計年度任用職員1)	※主査1名増員
学芸課長	収集展示係 9名 (係長1、学芸員4、再任用1、会計年度任用職員3)	※学芸員2名増員
	交流・教育係 7名 (係長1、学芸員1、会計年度任用職員5)	
課長 (魅力向上検討)	主査※魅力向上施設検討 (主査1、建築1)	
	主査※魅力向上運営検討 (主査1)	

3 令和8年度予算(案)

歳出	612,826 千円	施設管理、魅力向上経費、施設改修、交流事業、展覧会経費、資料収集費 等
歳入	79,345 千円	施設使用料、常設展観覧料、寄付 等

4 主な事業、取組みについて

✓ 特別企画展の実施

「おいでよ！夏の美術館vol.3 大どろぼうの家」「南アジアの現代美術」を開催予定。

✓ アーティスト・イン・レジデンス事業の拡充

国内外から9組程度を招へいし、Artist Cafe Fukuokaを拠点に滞在制作や交流活動を実施。

✓ 魅力向上

コレクション展の開催や展示機能の強化に向けて、多くの人が集まり気軽に立ち寄れる場所として施設拡充するための基本設計を行う。

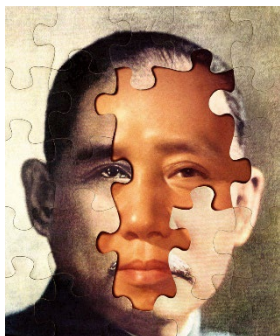
4 主な事業、取組みについて

新・年間シリーズ「アジア美術の歩き方(仮)」

より多くの人にアジア美術館を知ってもらうことを目的とした、当館のコレクションを中心とした新・年間シリーズ企画。アジア美術の入り口となるような展覧会として、アジア美術を3つのエリア(東、南、東南)毎に分けて展示し、旅をするように作品との出会いを楽しんでもらう。

「年間パスポート(新規)」の販売や「コレクションカード」の配布等、親しみやすいアプローチをとる。

東アジア編 (コレクション展)		南アジア特別編 (特別展&コレクション展)		東南アジア編 (コレクション展)	
会期	4月18日～8月30日 (123日間)	会期	9月19日～翌1月11日(93日間)	会期	令和9年2月4日～8月29日 (178日間)
会場	アジアギャラリー	会場	企画ギャラリー、アジアギャラリー	会場	アジアギャラリー
テーマ	「国地域ごとの特色」「国地域間の関係」「社会に生きる個人」という三章構成で、東アジアの状況を複数の異なる角度から紹介	主催	福岡アジア美術館、福岡市文化芸術振興財団(予定)	テーマ	霊性(スピリチュアリティ)、信仰、伝統、自然をテーマに、東南アジアの熱気、空気感を伝える
		テーマ	当館の南アジアのコレクションに加え、所蔵作家の近作を借用し、大型インスタレーションを空間で見せる		

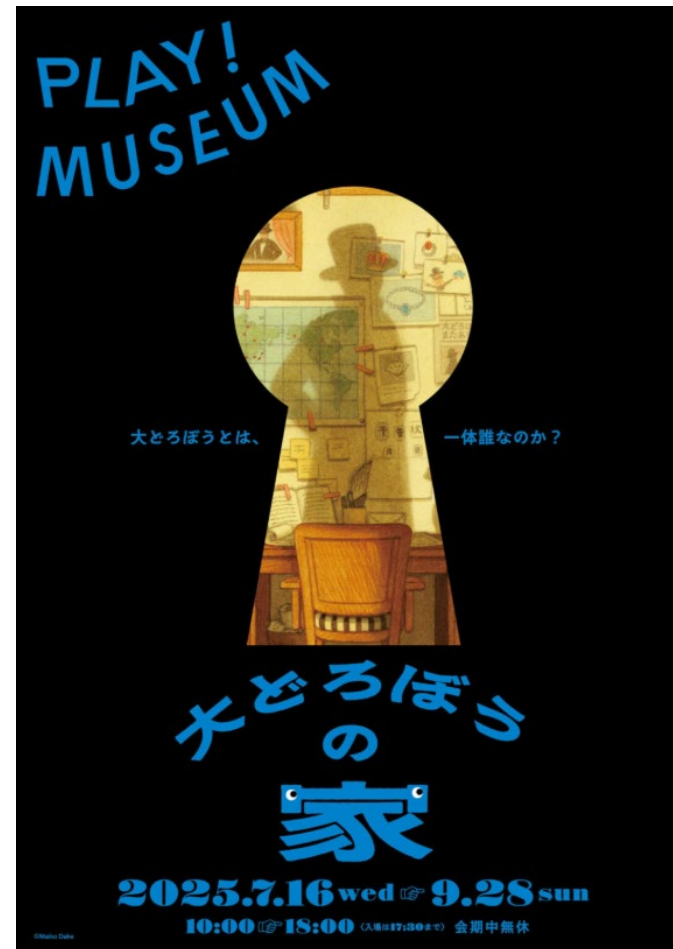


4 主な事業、取組みについて

特別企画展

おいでよ！夏の美術館vol.3 大どろぼうの家

会期	令和8年7月9日～8月30日（53日間） 会期中無休
主催	福岡アジア美術館、西日本新聞社、 テレビ西日本、西日本新聞イベントサービス
内容	令和6年度よりスタートした、親子で楽しむ夏季のシリーズ展覧会「おいでよ！夏の美術館」の第3弾。 令和8年度は「どろぼう」をテーマに、大人も子どもも主役になって参加できる、没入体験型のエンターテインメントの展覧会を開催。ヨシタケシンスケら各ジャンルの豪華ゲストの協力を得た企画により、回廊、応接室、隠し部屋等、8つの部屋に分けられた展示室に、どろぼうの肖像画や変装道具、美術品等、謎が謎を呼ぶコレクションが並びます。
会期中の 主な イベント	ワークショップ、絵本の読み聞かせ等



4 主な事業、取組みについて

アーティスト・イン・レジデンス事業（アートのみちづくり推進事業）

招へい者	国内外アーティスト 9組程度
期間	第1期(7～10月 3か月間) 第2期(9～12月 3か月間) 第3期(1～3月 2か月間)
制作場所	Artist Cafe Fukuoka(旧舞鶴中学校校舎)ほか
内容	国内外の応募の中から、今後の活躍が期待されるアーティスト9組程度を招へい。福岡での創作活動や作品発表等のさまざまな機会を提供することで、アーティストが刺激し合って成長し、福岡から世界に羽ばたくことを支援する。



Artist Cafe Fukuoka



過去の展示風景

4 主な事業、取組みについて

教育普及活動

(1) 学校との連携

- ・スクールプログラム(対話型鑑賞、アートカード等)
- ・職場体験、博物館実習 等



(2) ワークショップの開発

- ・アジア作家とのワークショップ
- ・所蔵品を活用したワークショップ



(3) アジア美術学習サイトの利用促進

- ・わかりやすいアジア美術の紹介
- ・アジアと日本の美術交流史
- ・オンライン蔵書検索システムと連携



5 魅力向上の検討

アジア美術館は、1999年(平成11年)にアジアの近現代美術を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館として開館して以降、その先駆的な取り組みによって市民の貴重な財産となっているが、その価値や魅力を広く市民に届け切れず、十分に活かしきれていないことから、令和5年度より魅力向上の検討を行っている。

コレクション展の魅力強化

コレクションを中心にアジアの美術を地域毎に紹介するシリーズ展を開催する。展示作品の魅力を引き出すため、展示空間の演出を実施するとともに、広報強化に取り組む。

また、令和9年度に開催を計画している大規模国際展に向けた調査・準備を行う。

施設拡充の検討

警固公園地下への施設拡充に係る基本設計等を実施する。